

「スイッチング円滑化タスクフォース」



代表取締役社長 猪腰英知

会社紹介

H.I.Sグループ



TRAVEL
旅行事業



THEME PARK
テーマパーク事業



HOTEL
ホテル事業



REGION
地域事業



ROBOT
ロボット事業



ENERGY
エネルギー事業



INSURANCE
保険事業



OTHER BUSINESS
他事業

H I Sモバイル

企業理念：ネットワークを通じて人々に役立つ環境づくりに寄与する」

ミッション：新たな体験価値を提供し心豊かな世界を生み出す

ビジョン：世界中が「つながる」環境を作る

私達は、H I Sグループにある様々な事業と通信を組み合わせ、新しい価値創造を提供する会社です。

A eSIM普及による、国内外利用者の利益

B eSIM導入における各種課題

1. eSIMの対応状況について
2. MNOからの機能開放について
3. SIMロックとの関係について

「スイッチング円滑化タスクフォース」

A eSIM普及による、国内外利用者の利益

B eSIM導入における各種課題

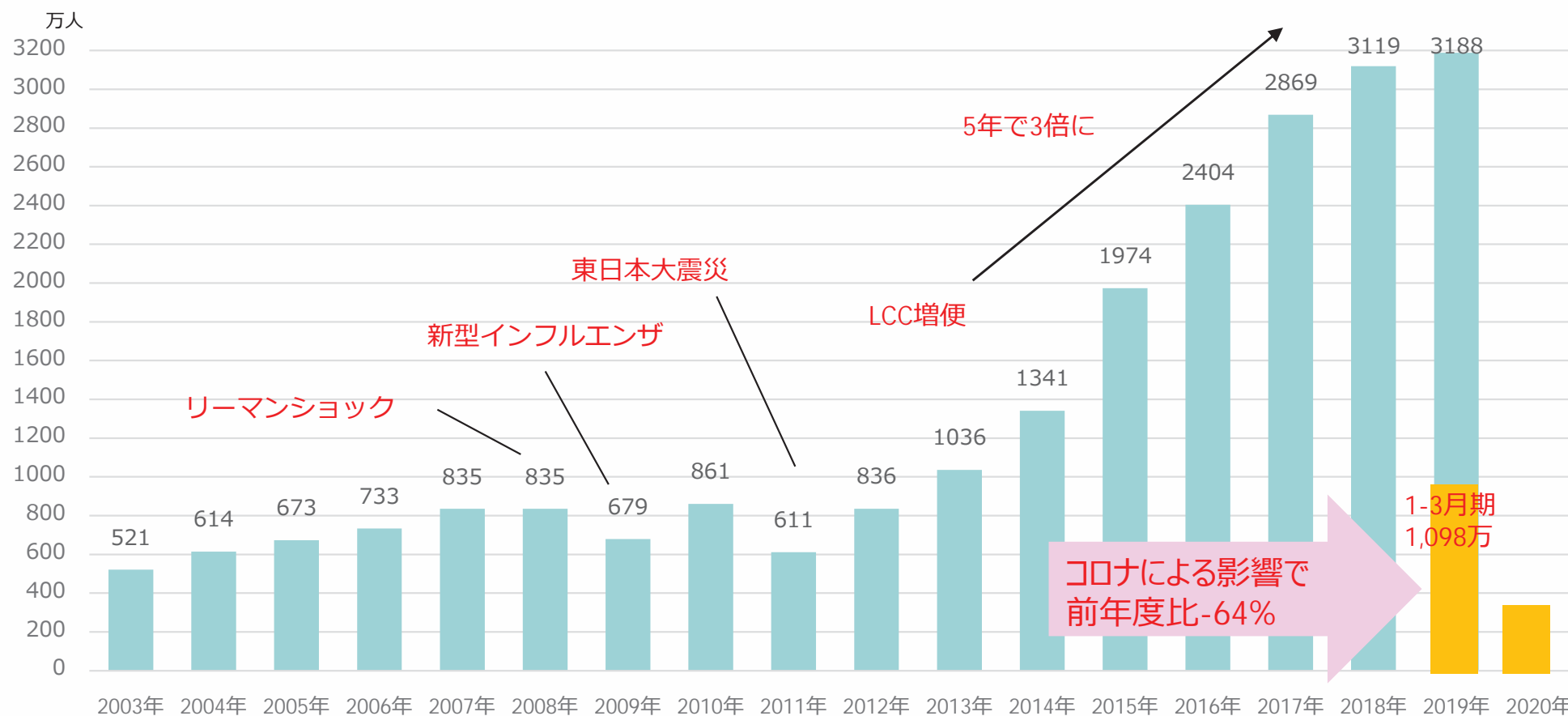
1. eSIMの対応状況について
2. MNOからの機能開放について
3. SIMロックとの関係について

訪日外国人旅行者数

今はコロナで一時停止状態にありますが、コロナを克服した後は、大挙して日本に旅行者が訪れてくることが予見されます。

訪日外国人旅行者の推移

出典：観光庁「令和2年版観光白書」



eSIM普及による、国内外利用者の利益



政府が掲げる目標値
 訪日外国人目標：6,000万人（2030年度）



訪日外国人旅行者数

2020年：4,000万人
(2015年の約2倍)

2030年：6,000万人
(2015年の約3倍)

訪日外国人旅行消費額

2020年：8兆円
(2015年の2倍超)

2030年：15兆円
(2015年の4倍超)

地方部での外国人延べ宿泊者数

2020年：7,000万人泊
(2015年の3倍弱)

2030年：1億3,000万人泊
(2015年の5倍超)

外国人リピーター数

2020年：2,400万人
(2015年の約2倍)

2030年：3,600万人
(2015年の約3倍)

日本人国内旅行消費額

2020年：21兆円
(最近5年間の平均から約5%増)

2030年：22兆円
(最近5年間の平均から約10%増)

出典：首相官邸資料

eSIM普及による、国内外利用者の利益



キャッシュレス環境
(通信が必要)

無料Wi-Fi環境

SIMカード補完促進

翻訳 (通信が必要)

3 すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に

■最先端技術を活用した革新的な出入国審査等の実現

- ・世界最高水準の顔認証技術の導入などを促進

■民間のまちづくり活動等による「観光・まち一体再生」の推進

- ・宿泊施設や観光バス乗降場等の整備促進

■キャッシュレス環境の飛躍的改善

- ・2020年までに、主要な観光地等における「100%のクレジットカード対応化」などを実現

■通信環境の飛躍的向上と誰もが一人歩きできる環境の実現

- ・無料Wi-Fi環境とSIMカードの相互補完の利用促進

■多言語対応による情報発信

- ・中小事業者のWEBサイトの約半分を多言語化

出典：首相官邸資料

観光ビジョン実現プログラム2020より

出典：https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001353662.pdf

観光振興の推進的効果と誰もが一人歩きできる環境の実現	インバウンド客向けに整備される観光環境
<p>【観光ビジョン】</p> <p>観光振興の推進的効果と誰もが一人歩きできる環境の実現</p> <p>2020年までに、主要な観光・防災拠点における重点整備箇所（推計29000箇所（※））に、無料Wi-Fi環境を整備を推進</p> <p>（※）箇所数は今後さらに精査</p>	<p>インバウンド客向けに整備される観光環境</p> <p>2020年までに、主要な観光・防災拠点における重点整備箇所（推計29000箇所（※））に、無料Wi-Fi環境を整備を推進</p> <p>（※）箇所数は今後さらに精査</p>

通信環境の飛躍的向上と誰もが一人歩きできる環境の実現より

Wi-Fiスポット
プリペイドSIM販売業者を増やす目標

・2020年までに、主要な観光・防災拠点における重点整備箇所（推計29000箇所（※））に、無料Wi-Fi環境の整備を推進
（※）箇所数は今後さらに精査

・2020年までに、プリペイドSIM販売拠点を倍増させ、無料Wi-Fi環境と相互補完的に通信環境全体を改善（複数国からの国際便が乗り入れる全ての空港（21箇所）、訪日外国人が訪問する拠点の店舗数1,500箇所）

出典：観光ビジョン実現プログラム 2020

eSIM普及による、国内外利用者の利益

問) あなたが今後訪れたい国・地域をすべてお知らせください。(複数回答)

40%以上	日本
30%以上	アメリカ、オーストラリア、フランス、イギリス、イタリア、カナダ、スペイン
20%以上	ドイツ、ギリシャ、オランダ、韓国、シンガポール、タイ、香港、中国
10%以上	ロシア、ベトナム、台湾、マレーシア、メキシコ、トルコ、インドネシア、ポーランド、インド、フィリピン、サウジアラビア

電通調べ<https://www.dentsu.co.jp/news/release/pdf-cms/2019040-0415.pdf>

構成員限り

日本の人気は世界的に高い

理由

自然・歴史・食

田舎が多い為、フリーWiFiスポットでは対応が難しい

自然	7
歴史	6
食	6
体験	1

1位	温泉	自然	11位	ラーメン	食
2位	自然	自然	12位	世界遺産	歴史
3位	桜	自然	13位	酒・焼酎	食
4位	日本式庭園	歴史	14位	ナショナルパーク	自然
5位	郷土料理	食	15位	歴史ある街並み	歴史
6位	祭り	歴史	16位	島	自然
7位	和菓子	食	17位	雪	自然
7位	城・城址	歴史	17位	ローカルでの交流	体験
9位	神社仏閣	歴史	19位	和牛	食
10位	ローカルフード	食	20位	海	自然

出典：電通資料<https://dentsu-ho.com/articles/6863>

ハウステンボス＝東京ドーム33個分

- ・ W i - F i 未整備
- 民間の為整備費用は自社の為、開発不可
- ・ ポケット W i - F i レンタルも管理、運用が難しい
- ・ V R ・ A R などのアプリを活用したサービス
- ・ インフォメーション等、訪日外国人のモバイル通信環境には以前の課題があるが未着手



民間施設で通信環境が整備できない

物理的管理が無くてもe-SIMの技術で一時的、部分的なサービス提供も可能。

オンラインツアー/アフターコロナはライブ感

オンライン体験ツアー一覧 774件



5G体験も

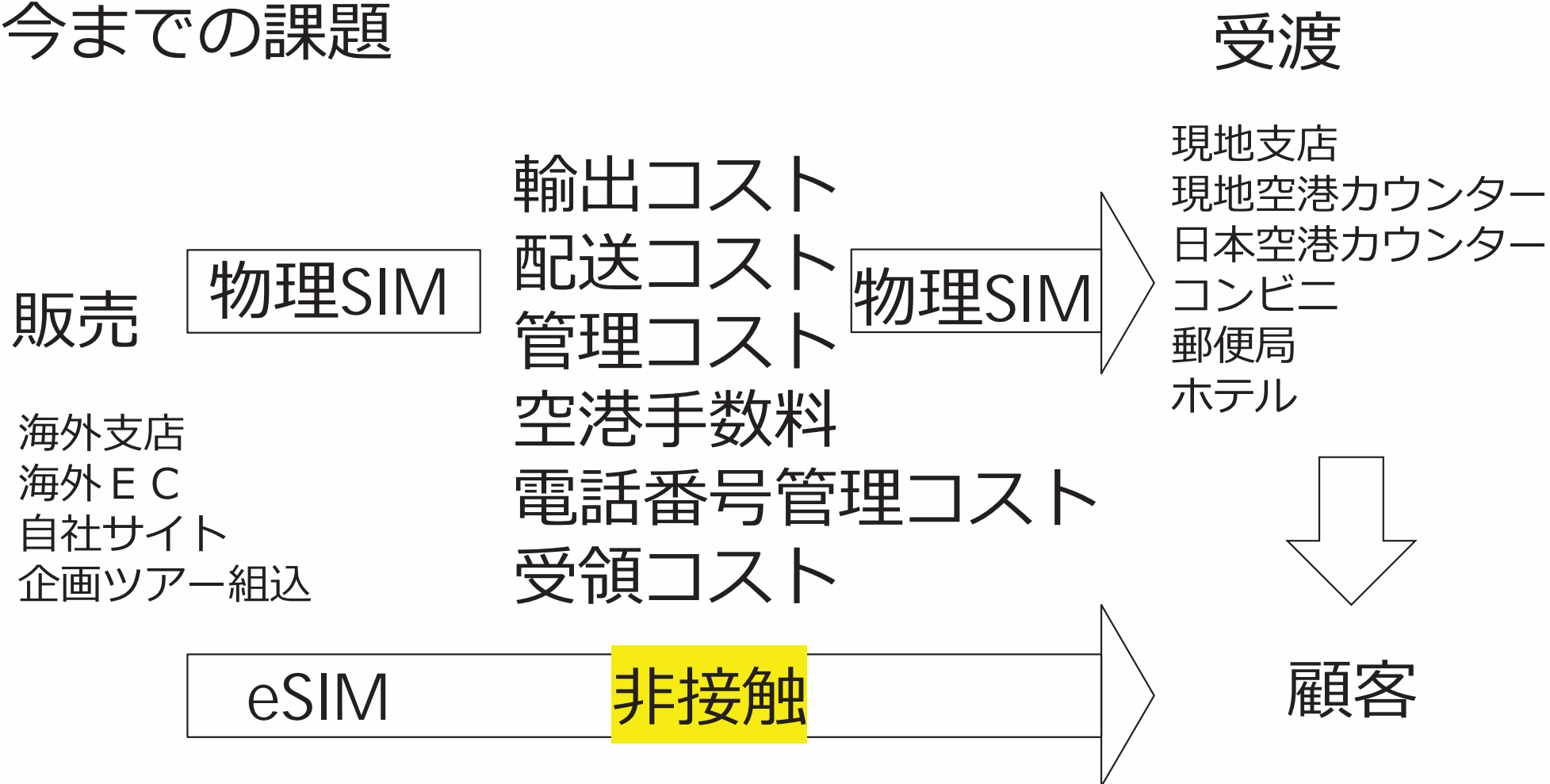
情報発信はSNS
動画・ライブ感

1位	Facebook	24億9,800万人
2位	YouTube	20億人
3位	Whats App	15億人
4位	WeChat	11億6,500万人
5位	Instagram	10億人
6位	TikTok	8億人
7位	Linkedin	6億7,500万人

HISオンラインツアーでの人気要素：ライブ感
SNS利用者数は増加の一途
アフターコロナのはリアルタイムの重要性が増加
・・・→旅行中の通信とSNSの活用が宣伝の鍵

eSIM普及による、国内外利用者の利益

オリンピック&訪日客6,000万人にむけて
今までの課題



eSIM普及による、国内外利用者の利益

オリンピック&訪日客6000万人にむけて

2021年オリンピックの課題

現状の海外渡航者に関して、行動計画書、アプリ等
を利用した連絡手段の確保が一般的だが・・・

通信手段の受渡が困難

輸出コスト

配送コスト

管理コスト

空港手数料

電話番号管理コスト

受領コスト



現状海外に在庫が無い

配送コスト

管理コスト

空港カウンターが無い

電話番号管理コスト

行動制限・密

携帯電話は旅行者の必須アイテム：旅行代理店からの視点

インバウンド旅行者にストレスなく旅行を楽しんでもらうためには、コスト・利便性・安全性での踏み込んだ対応が必要となります。

具体的ニーズ

インバウンド
に求められる
通信需要

①コスト

➤現状の極めて高いローミング価格をグローバルスタンダードに合わせる

②利便性

➤WEBにより短時間でSIMの切り替えが可能な仕組みを導入する

③安全性

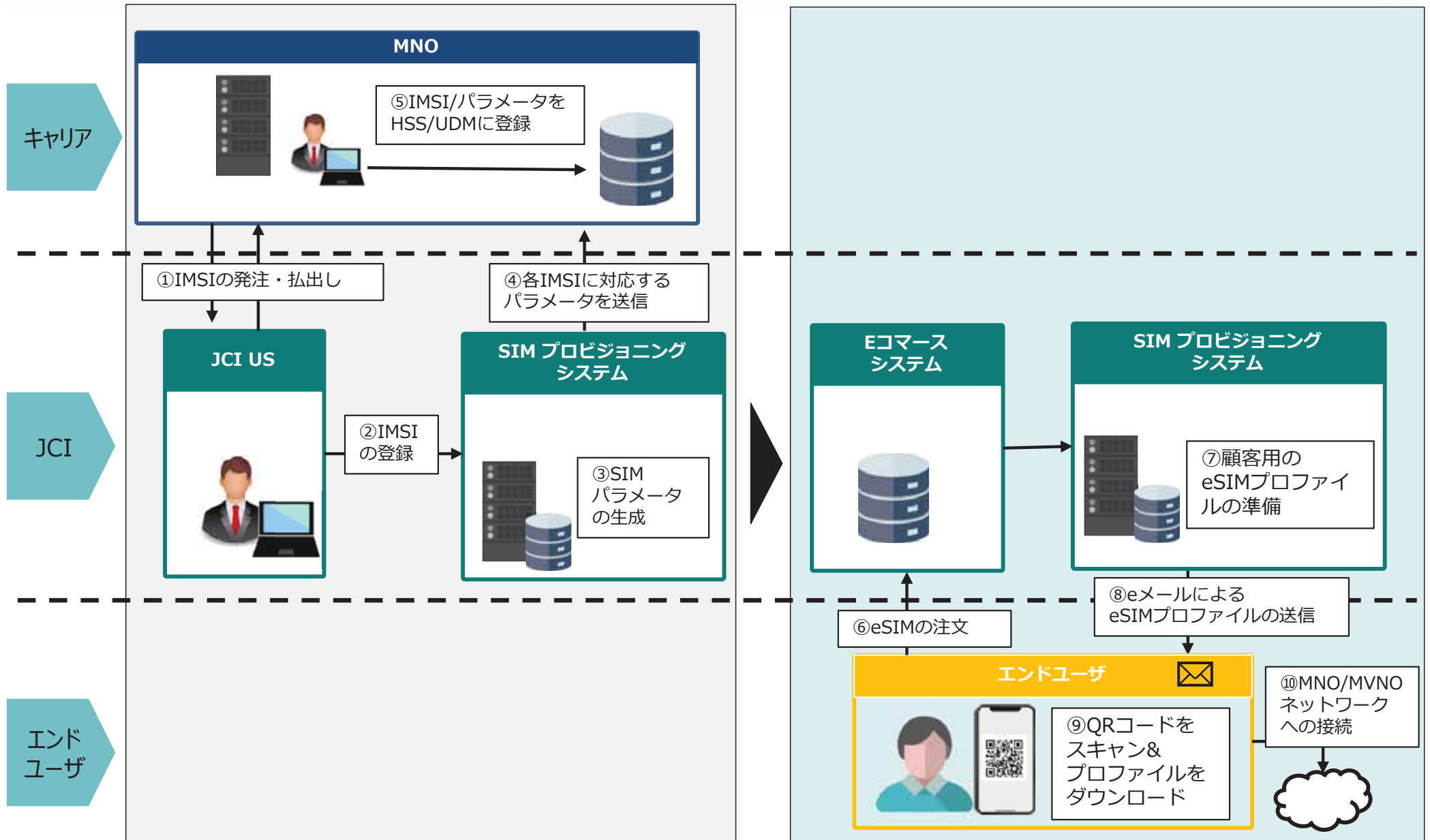
➤コロナの時代において、店頭での対面処理を避けて安全に必要な手続きを完了させる

「スイッチング円滑化タスクフォース」

A eSIM普及による、国内外利用者の利益

B eSIM導入における各種課題

1. eSIMの対応状況について
2. MNOからの機能開放について
3. SIMロックとの関係について



eSIM普及による利用者便益

インバウンドにおけるコスト・利便性・安全性という時代のニーズを満たすためには、eSIMの普及が最も合理的な方法であると想定されます。

eSIMの特徴

1

ユーザ自ら携帯電話情報を書き換えることができる

2

1つのeSIMに複数の携帯電話情報を保存することができる

3

1つの携帯電話情報を複数のeSIMで共有することができる

利用者便益

1

国内外問わずキャリア乗り換えの際にSIM差し替えの手間を省ける
→**ユーザニーズに合致したキャリア選び**

2

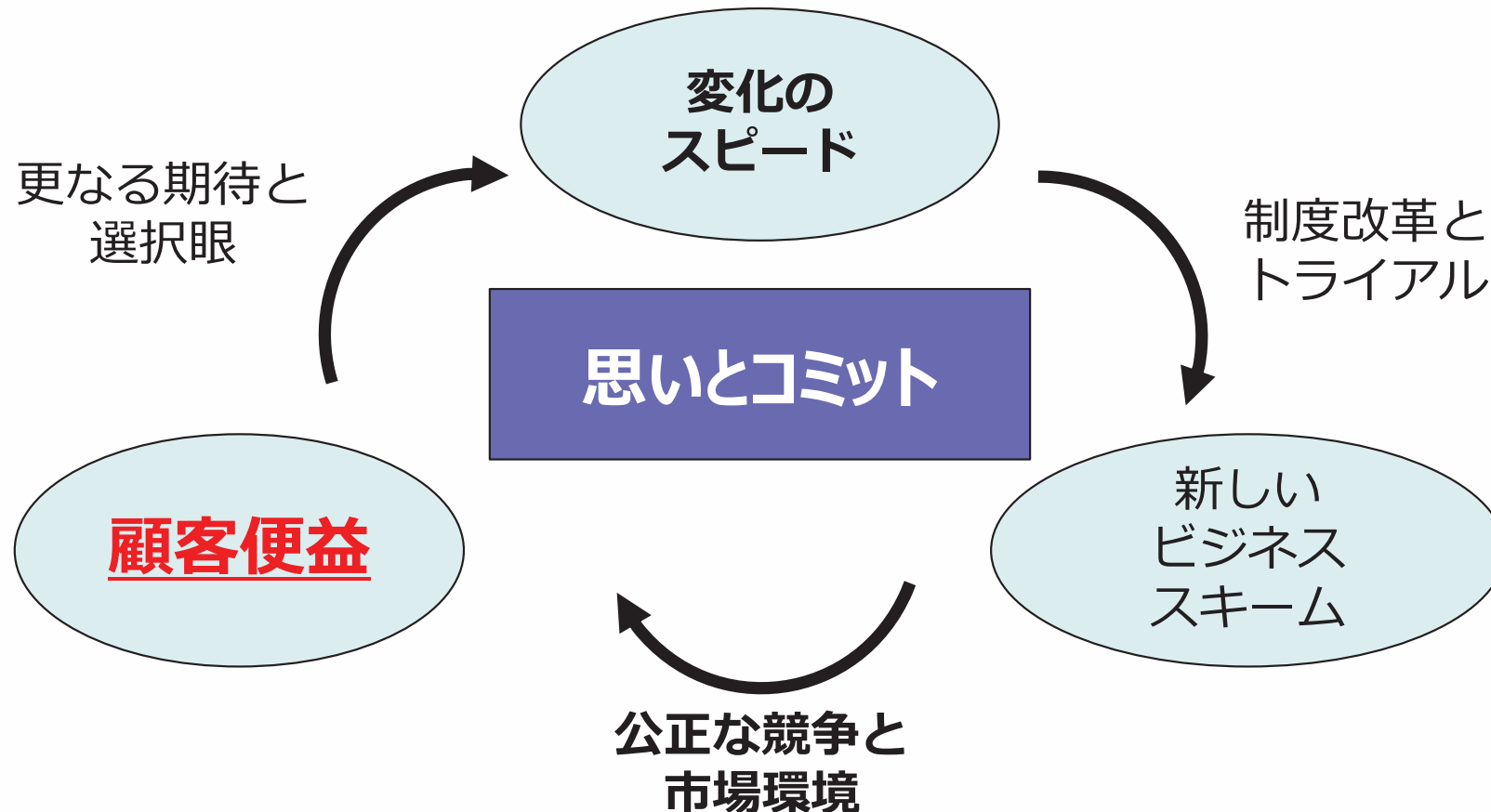
複数のプロファイルがあれば、端末操作で利用プロファイルを簡単に切り替えが可能となる
→**ローミング利便性の強化**

3

1部の機種では、異なる端末間で共通の通信サービスの利用が可能となる
→**デバイス間の連携の強化**

所感

通信業界の発展には、技術だけでなく、事業者展開のスピード・それに応える新たなビジネススキーム・その結果もたらされるより大きな顧客便益が鍵となります。このサイクルを継続的に回すためのコミットは、事業者の思いでもあります



eSIMをベースとした通信サービスの進化は、時代の要請！

オリンピック開催迄の6か月間での実現を目指すべき。

2030年の訪日客6000万人実現に向けての必須サービスであると考ええる。